

【令和4年度戴帽式 校長のことば】

本日ここに 戴帽生をお祝いすべく 保護者の皆様のご臨席のもと また 戴帽生の後輩である一・二年生が見守る中 埼玉県立常盤高等学校 第五十一回戴帽式を挙行できますことは 職員一同この上ない喜びでございます 戴帽生の皆さん 本当におめでとうございます

戴帽式は 皆さんが看護の基礎的な学びを終え その成果を振り返り 看護の道を目指す者としての姿勢を あらためて自分自身に問い直す機会となる 大変重要な儀式です 本日 皆さんは白衣に身を包み 一人ひとりがナースキャップを戴き ナイチンゲールから授けられた灯火を手に 誓いを立てました 先ほどの「戴帽生のことば」からも 皆さんが看護師になるという志を更に確固としたこと 今後に向けた更なる学びを決意したことを感じ取ることができました 皆さんのことばを聞き 私も胸を熱くし とても感動しています

皆さんが本校に入学して二年二か月あまり過ぎましたが 皆さんが入学した一昨年の年度当初は 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により 国内すべての学校が臨時休校の最中というタイミングでした せっかく常盤で看護の勉強がスタートできるという矢先に登校することが出来なかった当時の皆さんの心中を推し量ると 今でも大変胸が痛みます 臨時休校が明けた後も 授業や実習等の制約を余儀なくされたり 学校行事や部活動の大会が中止や延期になったり コロナ以前のような友人との触れ合いが叶わなかったり 皆さんは 大変つらい思いをしてきました しかし そのような困難な状況でも 皆さんは心折れることなく 看護師という夢に向かって努力を積み上げ 仲間とともに切磋琢磨しそして本日 こうして栄えある戴帽式を迎えることができました 皆さんのこれまでの努力 頑張り そして 未来の希望を失わない姿勢に 心から敬意を表します

戴帽式を迎えた皆さんの看護の学びは これから更に高いステップへと進みます そんな皆さんに 私からは 近代看護の祖と讃えられる フローレンス ナイチンゲールの残した次の言葉を贈ります

「看護を行う私たちは 人間とは何か 人はいかに生きるかをいつも問いただし 研鑽を積んでいく必要があります」という言葉です

看護師を目指す皆さんにとって 自他尊重の精神や 人間の尊厳に対する畏敬の念を基盤に「看護師としていかに生きるか」を問いただす姿勢を持ち続けることは 時代が変わっても とても重要なことだと考えます と同時に 皆さんにとって必要なことは 現代社会が包含する世の中の急激な変化に的確に対応できる力を磨くことです 医学や看護学は

常に刻々と日々進化しています。皆さんが将来看護師として飛び込む医療現場も、時代や社会の変化とともに大きな影響を受け、ダイナミックに変わっていくことが十分予想されます。皆さんが、患者さんや他の医療従事者から信頼され、一人前の看護師として職責を果たすためには、ナイチンゲールの残した言葉にもあるとおり、自身の知識・技術を更に高められるよう、また、いかなる変化にも柔軟に対応・適応できるよう、絶えず自己研鑽に励む必要があります。このような努力の積み重ねは、長い坂道を登るようなものです。一歩一歩、歩み続ければ、少しずつ進歩していきますが、立ち止まってしまうと、坂道を転げ落ちるように、後退してしまいます。戴帽生の皆さん、本日の厳粛な戴帽式での誓いと感動を、どうか生涯忘れずに、これからも学び続ける姿勢を持ち続けてください。看護師としてどう生きるべきかを常に自問自答しながら、時代の急激な変化に取り残されないよう、そして、たくましく着実に前進できるよう、皆さんには、いつまでも学び続ける人間で在ってほしいと願っています。

ここで、保護者の皆様に申し上げます。皆様のお子様が、こうして晴れて戴帽式を迎えることができましたこと、心よりお慶び申し上げます。本当におめでとうございます。お子様一人ひとりが、本日の誓いの重さを十分噛み締め、今後も夢に向かって成長していきますよう、職員一同、これからも全力で教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆様におかれましても、引き続き、本校教育活動に対しまして、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。

むすびに、戴帽生の皆さんの今後の高校生活が一層充実したものになりますことを祈念し、校長のことばといたします。

令和四年六月十七日

埼玉県立常盤高等学校長 相模 幸之